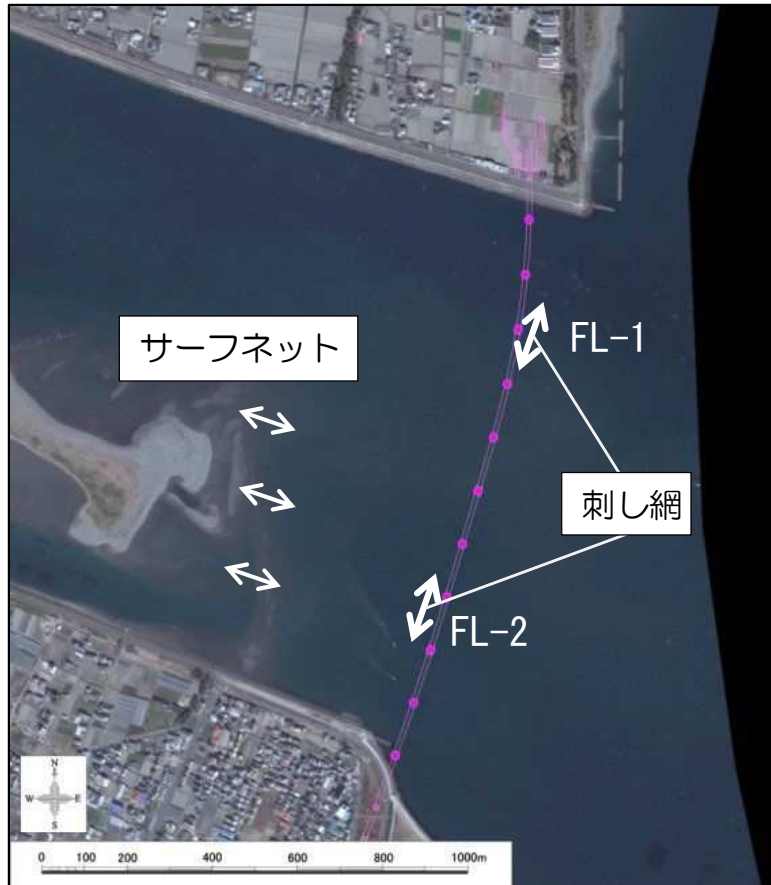


■ 魚類調査

■ 橋梁の存在により懸念される、魚類の出現状況の影響監視として、下記に着目した調査を行う。

- ・ 橋脚の存在による魚類の出現状況の変化



- 刺し網：吉野川渡河部付近の左岸側みお筋と中央部から右岸側の浅場の2箇所を実施。
- サーフネット：底生生物調査の潮間帯定量調査と同様に、吉野川河口干潟の東側において任意の3地点で実施。

■ 監視項目

調査目的	調査の位置づけ	調査箇所	魚類調査	
			刺し網※1	サーフネット※2
橋脚の存在による魚類の出現状況の変化	直接的な影響把握	計画路線上：FL-1,2	○	—
	自然変動の把握	河口干潟の東側で3箇所	—	○

※1：刺し網(一枚網)は、夕方に設置し、翌日の朝に回収する。

※2：サーフネットは上げ潮と下げ潮でそれぞれ実施する。

■ 調査内容

工事区分	調査内容	時期・頻度
事前調査 工事中調査 事後調査	種名,個体数,体長	年2回 ・ 夏季：6月の大潮の日 ・ 秋季：10月の大潮の日